

Related text - Prescribed issue: Relationships (Text 1)

Read the text and answer the questions that follow.

親子かんけい？

最近の親子かんけいは、むかしとだいぶ変わってきている。親と子供がだんだん友達のようなかんけいになっているようだ。むかしは、親子は、ぜったいに友達かんけいではなかった。子供は、親の言うことに口答えしたり、はんたいしたりしてはいけなかった。そして、親は子供のお手本にならなければならないという考え方が強かった。

最近ふえてきた「友達親子」をれいとして、見てみよう。

先日私は、日本に行って友人の家に泊まった。その友人には、15才と17才の息子が2人いるのだが、その息子達と友人の会話を聞いて本当におどろいてしまった。なぜなら、息子が母親に「お前なあ、お客さんが来たんだから、もっとうまい物りようりしろよ。」と言ったからだ。げんざいでは、子供が親に、けい語で話す家庭は、ほとんどない。しかし、少なくとも子供が親と話す時に友達に話すのと同じように話す、というのは信じられなかった。でも、しばらくその息子達と話してみると、言葉使いは、悪いけれど、彼らが両親のことを大切に思っていることがわかった。たとえば、上の息子は、両親の20年目の結婚記念日を覚えていて、両親がおいおいをするつもりがないと言うと、「そんな大事な日はぜったい、おいおいするべきだ」と、おこって言ったそうだ。この子供達が両親にたいして友達みたいに話すのは、父親（友人の夫）が子

供^{ども}達と友達のようなかんけいに^{そだ}育てたいと^{かんが}考えたけっかなのだ、と友人はせつめいしてくれた。

また、べつの友人は、26才の娘さんに、よく、ふくや、バッグやまんがの本をかしてあげたり、かりたりしている。娘さんは、とてもきちんとしている人で、友人は、時々娘さんに、「もうちょっとへやをきれいにしなさいよ。」とか「お母さんのスカートは、みじかすぎる」などと、しかられることがあるそうだ。

さらに、私よりもっと^{わか}若い^{せだい}世代の親達は、コンピューターゲームをしながら^{そだ}育てた^{せだい}世代だから、こういう親は、子供^{ども}達といっしょにゲームをしたり、時々ゲームのことで、子供^{ども}とけんかしたりする。父親^{むす}が息子とけんかして、子供^{ども}に「そんなことをしたら、お母さんに言うぞ！」などと言っているのを見たことがある。

「友達親子」がふえてきたのは、あるいみで、子供^{ども}っぽい親がふえていくせいだとも言えるだろう。

** Vocabulary from the prescribed text extracts and additional kanji set for recognition by the BOS have been included without furigana.*

Questions

1. Describe the relationship between parents and children in days gone by as stated in the passage.
2. Explain why the writer was surprised (paragraph 2).
3. Describe what the writer discovered about her friend's sons.
4. How does the writer come to his/her conclusion?

Writing task

What kind of relationship do you have with your parents/guardians?
Write a short essay of approximately 400*ji* describing your relationship.